

## 千里国際学園のバイリンガル環境

バイリンガル環境で学校生活を過ごすというのはどういうことでしょうか。ある残暑厳しい午後、本校11年生（高校2年生）のHarukaとJunと三人で語り合う機会を持ち、このことについての二人の考えをきいてみました。



Haruka

まず最初の質問は、学校生活でどんなときに両言語を使うかということですが

Junは、少し考えてから、にっこり笑ってスラスラとリストアップしてくれました。「様々な状況で英語と日本語の両方を使っています。二人とも生徒会の役員をしていますが、委員会は二言語で行います。いいシステムが出来上がっていて、委員はそのとき使いやすいどちらの言葉で話しても良く、『通訳』という役職の人がそれを訳してくれます。また、生徒議会も二言語で行われますし、クラブも体育の授業も校内放送も（OISと合同での）全校集会もそうです。それに僕の場合はホームルームでもです。担任の先生がアメリカ人ですから。」Harukaはしばらく考えて音楽のことも付け加えてくれました。「音楽の先生はアメリカ人ですが、日本語の歌を教えてくれることもありますから。でも基本的に音楽と美術と英語の授業は英語だけで行われています。」

二つの言語を使って一日を過ごすというのはかなり大変なことだろうと想像するのですが

Harukaは、そうではないと言います。「二つの言語を切り替えてつかうということは、私にとってはごく自然なことであると感じます。この環境では、OISの生徒もSISの生徒も皆、英語と日本語の両方を少しは理解できるはずですから、まず何よりも居心地がいいのです、本当に。」Junも同じ意見ですが、このようにも言っています。「時に大変だなと思うことはあります。僕の場合実は第二言語はフランス語で英語は三番目の言語なので、つつい日本語で考えて心の中で英語に訳してから口に出しているようなことがあります。大変なことではあるけれど、そういう努力というのはここではあたりまえのことですから。」

では、このバイリンガル環境にいて、どんなスキルを伸ばすことができるのでしょうか？どう思いますか？

簡単に答えられることではないです、というのがHarukaの最初の返事でした。「だって、バイリンガル環境というだけではないんです。実際にはマルチリンガル、マルチカルチュラル（多文化多言語）の環境ですから。」

### ブラウン先生

キャサリン・ブラウン先生は、SIS創立当初の立ち上げ時より、本校の誇る英語プログラムを作り上げた中心人物です。一般生徒向けのCommunicationというコースなど、SIS独特のプログラムを築きあげてきました。その後オーストラリアの高校でも教鞭をとり、2年前に再びSISの教壇に戻ってきてくれました。現在は英語科の教員としてだけでなく、入学センターのメンバーとしてもその独創性とエネルギーを発揮してくれています。SISに学校訪問にお越し下さるときに彼女の案内を希望される場合はぜひご指名ください！

(SIS入学センター：井藤真由美・記)

日々、日本や外国からの友人や教員と英語と日本語の両方で会話をしています。つまり様々な文化や言語背景を持つ人々と常に交流しているわけです。」このHaruka自身の言葉を使って質問をしなすと、今度は笑って答えてくれました。「そうですね、このインターカルチュラルな環境（異文化環境）において、何よりもギブアンドテイクの仕方を身につけているといえると思います。外交術を日々学んでいるようなものです。」Junは別の観点から答えてくれました。「物事を多角的に見るということについて日々考えています。このスキルは21世紀において何よりも大切なものだと、実は僕は考えています。」

このようなバイリンガル環境はSISならではのものと、二人は感じていますか？

Harukaは少し考えてから言いました。「兄も帰国生が多い別の高校に行っています。先日一緒に買い物をしていた時にSISの友人と出会って英語でおしゃべりをしたんですが、兄がとつてもびっくりしていました。それでSISと他の学校の違う点について語り合ったのです。兄にとって、英語というのはあくまでも学習教科の科目目であるらしいのですが、私にとっては『生きている言葉』なんですよ。そんな違いを感じました。」

Junにも、これについて何か付け加えてもらえることがありますか

Junはピザの作り方にたとえながらこう言いました。「まるでピザですね。SISとOISでは、日本が土台の生地としてあり、英語やその他の言語は、僕たちをくっつけるピザソースです。その上に個性豊かな人たちがトッピングとして色とりどりにあり、「千里」は僕たちの上でとろけるチーズですね。」うーん、おいしそう。

(日本語訳：SIS入学センター 井藤真由美先生)

千里国際学園 中等部・高等部  
〒652-0032 大阪府箕面市小野原西4-4-16  
電話 072-727-5070, FAX 072-727-5055  
HP:www.senri.ed.jp, E-mail:admissions@senri.ed.jp



千里国際でのバイリンガル環境について、ベテラン教員のブラウン先生の二人の帰国生徒へのインタビューです。

SISとOISの二つの学校が共生していることの意義と効果が、二人によって語られています。学校のPRに終わらずに、生徒自身の中にそのコンセプトが根付いています。(大迫校長、大喜び！)

ブラウン先生は、ロサンゼルスとサンディエゴの教育フェアに参加されたことがあります。千里におけるアカデミック・スキルのトレーニングについて、保護者に熱っぽく語っておられたのが、印象に残っています。ブラウン先生のインタビュー、井藤先生の日本語訳、ご苦労様でした。